

ICT活用の社会インフラ

地域科学研究会は10月3

最初に野村総合研究所の

日、東京・平河町の剛堂会

館で研修会「ICT活用の

新しい社会インフラ・エネ

ルギー・水スマートシテ

ィ・スマートインフラ」

を開催した。同研修会では

5件の講義が行われ、小松

電機産業の広域総合管理シ

ステム「やくも水神シリー

ズ」の導入事例や会津若松

市の公民連携による経営改

革事例などが紹介された。

神尾文彦 上席研究員 公共経
営研究室長が「ICTを活
用した都市型社会インフラ
の再設計とスマートシテイ
の現状」と題し講演。実際
にICTを活用した海外の
住宅整備や柏市でのオンデ
マンド交通の実験を紹介、
ソフトウエアをインターネ
ット上で活用するSaaS
方式を採用することで維持
管理コストの削減を実現で

きたと話した。
続いて、「ICTを活用
した水インフラ施設の広域
統合管理システム」やく
も水神(すいしん)「ネッ
トワーク」をテーマに小松
電機産業の稲若和昭経営企
画室主査が登壇した。



神尾室長



稲若主査

水インフラ事例も紹介

地域科学研究会が研修会

やくも水神ネットワーク等

きたと話した。

続いて、「ICTを活用

した水インフラ施設の広域

統合管理システム」やく

も水神(すいしん)「ネッ

トワーク」をテーマに小松

電機産業の稲若和昭経営企

画室主査が登壇した。

同社の開発した「やくも

水神シリーズ」の概要を説

明、上下水道事業に導入に

することで▽コミュニケーション

・情報共有▽効率化

・経費削減▽災害対策・情

報セキュリティ、の三つの

メリットがあると述べた。

とくに、効率化・経費削

減では、中央監視制御装置

が不要でモバイル端末から

も管理が可能と説明「手軽

に設置可能で経費も削減で

きる」と話し、全国の事業

体での導入事例も紹介。兵

庫県多可町では年間5000

万円の管理費用削減が実現

したと話した。

また、同技術がオープン

システムを使い構築された

利点を活かし「専門技術者

大学、多メーカ等と連携し

て水に関わる知のプラット

ホームを構築したい」と今

後の方向性を示した。

事例紹介では3名が登

壇。会津若松市は「水道事

業における会津若松市方式

による公民連携の取り組

み」と題し、内山嘉昭会津

若松市水道部総務課総務ク

ループ副主幹が発表。同市

が抱える水需要の低迷等の

問題を解決する第三者委託

制度「会津若松市方式」を

解説した。

同方式は、取水や浄水場

運転管理に関する業務と、

送配水施設の維持管理とで

それぞれ事業者を選定、そ

の事業者同士で特別目的会

社(SPC)を設立し、業務

委託を行うもの。地元経済

の活性化を目的に、地元業

者が優先的に選定された。

その結果、職員を68名か

ら42名に縮小する等、コス

ト削減につながった。今後

の課題としては水利権の確

保、給水人口が減少してい

くなかでどのように事業を

行っていくか、などが示さ

れた。

横浜市は「横浜スマート

シティプロジェクトと地域

経済活性化」と題し、名倉

直横浜市温暖化対策統括本

部プロジェクト推進課長が

講演。スマートグリッドを

礎とした新しい社会システ

ムの構築をめざし、横浜市

により選定された8社が中

心となって、横浜を3エリ

アに分けたスマートシテイ

に向けた実証実験を行う。

また、同じくスマートシ

テイでは山村真司日建設計

総合研究所理事・上席研究

員が「柏の葉キャンパスシ

テイにおけるスマートシテ

ィ構想、街の発展を考慮し

た『エリア・エネルギーマ

ネジメントシステム(AE

MS)』で講演。環境基盤

の形成、自然未利用エネル

ギーの徹底利用を行い、地

域・利用者とともに低炭素

化に取り組むことによつて

スマートシテイを構築する

ことを発表した。